

☆緩和ケア講演会を開催しました☆

12月4日(土) ホテルサンルート酒田にて、市民公開講座・緩和ケア講演会を開催しました。講師には、順天堂大学病理・腫瘍学教授の樋野興夫(ひの・おきお)先生をお招きし、「がん哲学外来 医療の隙間を埋める、偉大なるお節介」と題して、ご講演いただきました。

大荒れの天気にもかかわらず、会場はほぼ満員となる180名もの一般市民・医療福祉関係者の方々に参加していただきました。

講演では、『がん細胞に起こることは、人間社会でも起こる。がん化は避けられないもの、どう共存していくかが重要』とし、人々が「がん哲学外来」に求めるものについては、「偉大なるお節介(他人の必要に共感すること)と暇げな風貌」で対応が大事とお話になりました。時折笑いを交え和やかな雰囲気、終わりに、『人生いばらの道(にもかかわらず)宴会』、『人は最後に「死ぬ」という大切な仕事が残っている』と、講演をしめられました。

質疑応答では、『自分より大切なものを見つけることが大事・・・そのとき再び、生きる目標を見つける』と・・・先生の偉大さと温かさが感じられた講演会でした。

(その日の樋野先生のブログより)

『今週末は、山形県酒田市にある、がん診療連携拠点病院「日本海総合病院」の市民公開講座・緩和ケア講演会で「がん哲学外来 医療の隙間を埋める、偉大なるお節介」で講演する機会が与えられた。雨と強風の中、多数の参加者があり会場は満員であった。感激した。会場では幾つかの人生の深い悩みの質問を頂いた。講演後は「緩和ケアチーム」のいろいろな職種の方々とこの交流の場が与えられ、大いに語りあった。皆様の切なる情熱が伝わり、近い内に、院内に「がん哲学外来 in メディカル・カフェ」が実現化する予感がした。』と。



緩和ケア診療加算について

H22.11.1 から「緩和ケア診療加算(入院中1日につき400点)」の算定が可能になりました。

この加算は、悪性腫瘍又は後天性免疫不全症候群の患者のうち、疼痛、倦怠感、呼吸困難等の身体的症状又は不安、抑うつなどの精神症状を持つ者に対して、当該患者の同意に基づき、症状緩和に係る専従の緩和ケアチームによる診療(身体症状・精神症状の緩和)が行われた場合に算定します。

緩和ケアチームのメンバーは、坂井庸祐医師(外科)、渡部俊幸医師(精神科)、村上祥子看護師(がん診療支援室)、阿部美佐緒薬剤師(薬剤部)です。それぞれ、所定の緩和ケア研修会を終了するなど、緩和ケアの知識と経験を有しています。

算定するにあたっては、対象患者の初回の診療時に、主治医等と共同して「緩和ケア実施計画書」を作成し患者さんに説明・交付します。

また、症状緩和に係るカンファレンスを週1回程度開催することとなり、緩和ケアチームの構成員と要に応じ、当該患者の主治医・看護師などが参加します。

やすらぎティータイム

12月8日(水)にやすらぎティータイムを開催し、入院患者7名、外来患者1名に参加していただきました。今回は、クリスマスツリーを飾るなどし、クリスマスの雰囲気を出しながら、お茶やコーヒー、お菓子の提供と二胡の演奏をしました。

演奏終了後は、患者さん同士で二胡の話題について盛り上がり、表情や会話から、ちょっとした気分転換になったのではないかと感じました。

次回開催では、外来患者さんがもっと参加できるよう広報を工夫し参加者の幅を広げ、リラックスして患者さん同士がふれあえる場を提供していきたいです。

～スタッフの皆様、ご協力ありがとうございます。～
次回開催には、緩和スタッフ以外でも、開催内容や参加者への声かけなど、ご協力いただきますようお願いいたします。